

寄宿舎便り



令和6年12月24日発行

第8号

文責 後藤

12月に入り、寒さも本格的になってきました。舎生のみなさんは、寒さに負けず、ツリー飾り、交流、ゆず風呂、カラオケ大会と、いろいろな行事に笑顔で楽しく参加されていました。自室の大掃除も頑張りました。新年を迎える準備は整っています！！

2学期も保護者の皆様のご理解、ご協力のおかげで無事に終えることができました。ありがとうございました。3学期もどうぞよろしくお願いいたします。



クリスマスツリーを飾りました！



12月2日（月）にクリスマスツリーの飾りつけを行いました。

参加してくれた舎生に加え、飾りつけの途中から聾学校舎生も参加してくれて和気あいあいとした雰囲気、雪や結晶などのオーナメントを飾り付けました。2日に飾れなかった舎生は、時間を見つけ飾り、青いライトが光る豪華なクリスマスツリーが完成しました。

舎玄関にあるテレビには、小学部の舎生と職員で作成した「森のクリスマス」というパネルシアターが流れ、寄宿舎はクリスマスの雰囲気です。（山平）



1月の行事予定

8日（水） 誕生者紹介放送（夕食時）
役員会

14日（火）～ 30日（木） 凧あげ

27日（月） 節分豆まき（聾学校との交流）
※毎週木曜日 今週の出来事放送

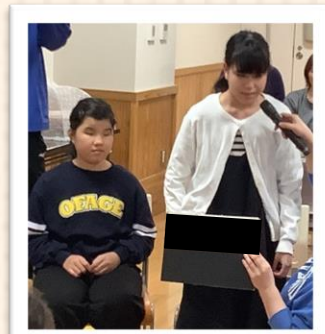


熊本聾学校との交流

熊本聾学校の舎生と交流を行いました。今年度1回目の交流は、11月18日(月)に食堂で自己紹介と、一緒に生活する中でお互いに気を付けてほしいことなどを伝え合いました。

自己紹介では、事前に学年と名前の手話を練習し伝えてくれました。聾学校の舎生も真剣に見入っていました。交流では、役員の2人が、聾学校の役員と打ち合わせをしたり、聾学校に伝える気を付けてほしいことの内容を投げかけ、舎生の意見を集約したり、準備から当日の司会など頑張りました。

2回目の交流は1月27日(月)に聾学校、盲学校混合のチーム対抗で「豆まき」を予定しています。チームも1回目の交流時に発表し、豆まき交流までに親睦を深めましょうと呼びかけています。早速、クリスマスツリー飾りの時に通りかかった聾学校の舎生を「一緒にしよう」と誘ったり、普段の挨拶が活発になったりしています。同じ建物内で生活している仲間として、さらに仲良くなれるように見守って行きたいと思います。(井野)



冬休み 元気に過ごしましょう!!

冬休みは1年を振り返り、心を新たに頑張ろうとする節目のときです。『1年の計は元旦にあり』といえます。1年の目標を決め、有意義な1年にしましょう。

- 1 起床時間、就寝時間を決め、規則正しい生活をしましょう。
家の手伝いも積極的に行いましょう。
- 2 学習にも力を入れましょう。1日の計画を朝に立て学習時間を確保し、冬休みの課題に取り組みましょう。
- 3 冬休み中の事故や防災についても気をつけて生活をしましょう。
外出する際は、家族の方に行き先や時間などを伝えましょう。



生活をしていると、いつ、何が起こるかわかりません。『自分の身は自分で守る』の意識を忘れずに。1月に皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。(立野)



鳥取盲学校、聾学校寄宿舎『青雲寮』とオンライン交流会がありました

鳥取県にある鳥取盲学校、聾学校『青雲寮』からのお誘いがあり、初めてオンライン交流を実施することになりました。12月3日（火）の19時から共同教室にて行うことになり、今回は双葉会役員の2人が参加しました。熊本聾学校の自治会役員さん達も一緒に参加することになり、当日までそれぞれで準備や練習に取り組んできました。

まずは、自己紹介にはじまり、寄宿舎の紹介動画を流した後に、質問コーナーがありました。鳥取からは、熊本の方言や熊本城の見所などの質問がありました。方言については、道案内する時に「ぎゃん行って。ぎゃん行って。ぎゃん行く。」という説明に、鳥取のみなさんの反応は「???」で、詳しく説明をすると笑顔で真似をして言ってくれました。熊本城やおいしい郷土料理の話では、みなさん興味津々で熊本に行ってみたいという声があがったそうです。熊本からは鳥取の方言や寄宿舎生活のことを質問しました。

交流会終了後に、共通の趣味であるゲームの話題で盛り上がり、別れを惜しんでいました。短い時間でしたが、鳥取のこともたくさん知ることができ、せっかくよいご縁をいただいたので、今後も機会があればまた交流会を実施したいと思います。（井上）



寄宿舎職員研修

11月19日（火）に本校理療科の稲葉史朗教諭に講師をしていただき、ご自身の生活上の工夫や余暇を充実させるための取り組みについて、わかりやすく講話をしていただきました。講話内容を一部紹介します。

- 調理では、食材の色がわかりやすいように、まな板の色はコントラストがはっきりしているものを使う。（青や黒がおすすめ）
- 手を切ってしまうとトラウマになってしまうので、ゴム手袋を着用するなど、手を切らない工夫が必要。
- 鍵はシールで印をつけて、触って向きがわかるようにしている。複数あるICカードにもシールを貼り、触っただけでどのカードか判別できるようにしている。
- 慣れない場所や人通りの多い場所に行くときは、使わなくても白杖をカバンに入れている。トラブル防止としても有用。
- 公共交通機関を使用する際は事前にスマホの乗り換えアプリを使って時間や乗るホーム、乗り換え時間等を調べる。



どの話もとても参考になる内容でした。舎生だけでなく、多くの人々の生活に役立つ工夫がたくさんありました。今回学んだことを舎生に紹介しながら、舎生の生活の充実につなげていきたいと思えます。ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。（柿下）

